



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン経済 (2月2日~14日)

1. 基礎物資輸入に関する新たな決定 (2日付ドンヤーイエ・エグテサード紙)

政府は基礎物資輸入に関する新たな決定を下した。これによると、米はカテゴリー3に変更されるため、今まで(公定レート適用: 1米ドル=12,260リヤール)と変わり、輸入業者は為替センターにおいて非参照レート(2月11日現在: 1米ドル=24,525リヤール)での確保を行わなければならなくなった。米の輸入関税は50%引き下げられる。今後は、肉類や食用油に関しても、公定レートが適用されなくなる可能性がある。

2. 国際線航空券の値上げ (4日付ジョムフーリーイエ・エスラーミー紙)

1月31日からイラン国内で販売される国際線航空券の価格が値上げされた。これにより、ノウルーズ(イランの正月)休暇時における旅行に、深刻な影響を及ぼす恐れがある。トルコ航空利用でのロサンゼルス往復航空券は、1月31日以前は3,380万リヤールで販売されていたが、現在は5,880万リヤールである。カタール航空利用でのワシントン往復航空券は、3,200万リヤールから4,500万リヤールに値上げされている。

3. イランの粗鋼生産量 (9日付シャルグ紙)

世界鉄鋼協会(World Steel Association)が発表した最新の統計によると、2012年におけるイランの粗鋼生産量は1,446万3,000トンであり、イランは生産量で世界第15位につけ、中東・北アフリカ地域最大の粗鋼生産国となっている。主な生産地はエスファハーン州とフーズターン州であり、主な輸出先はイラク、中国、UAE、インド、アフガニスタンである。

4. 非石油取引における貿易赤字の減少 (14日付アブラーレ・エグテサーディー紙)

アッバース・メエマールネジャード(Doktor 'Abbās Me 'märnezhād)税関長は、イランの非石油取引における貿易赤字が45億米ドル減少したことに触れつつ、「2012年3月からの10カ月間における関税収入は60兆リヤールを超える。同期間でイランは、産業製品、伝統工芸品、鉱物、石油化学製品、ガス・コンデンセートを含む、総額343億米ドル分の輸出を記録した」と述べた。

5. 赤肉や食用油へのカテゴリー3の適用 (14日付アブラーレ・エグテサーディー紙)

鉱工業・商業省幹部の意図に反して、赤肉(羊肉や牛肉)や食用油が米と同様、公定レート(1米ドル=12,260リヤール)で輸入できるカテゴリー1や2から、非参照レート(2月11日現在: 1米ドル=24,525リヤール)が適用されるカテゴリー3に転落すると見られている。輸入業者関係筋は「現在、同問題に関し輸入業者側は反対意見を述べているが、政府側は非参照レートを適用する方向で調整しているようだ」とコメントしている。